当該学年の学習が難しい肢体不自由児への
国語，算数・数学における指導内容の精選と指導の重点化

平成２３・２４年度　文部科学省特別支援教育総合推進事業　研究成果報告書　リーフレット
国立大学法人筑波大学 附属桐が丘特別支援学校

こんな子いませんか？

小学校・中学校・高等学校の各教科・科目の目標及び内容に準じて学習に取り組むが，障害特性やその他の課題等から，

・基礎的・基本的な事項を着実に身につけることが難しく，習得にばらつきが生じる。
・学年が上がる毎に遅れが見られ，所属する学年の子どもとの差が広がる。

そのため，学習指導要領の目標及び内容，学年別内容に掲げる事項に基づく進度での学習が難しい（以下，当該学年の学習が難しい）子ども。

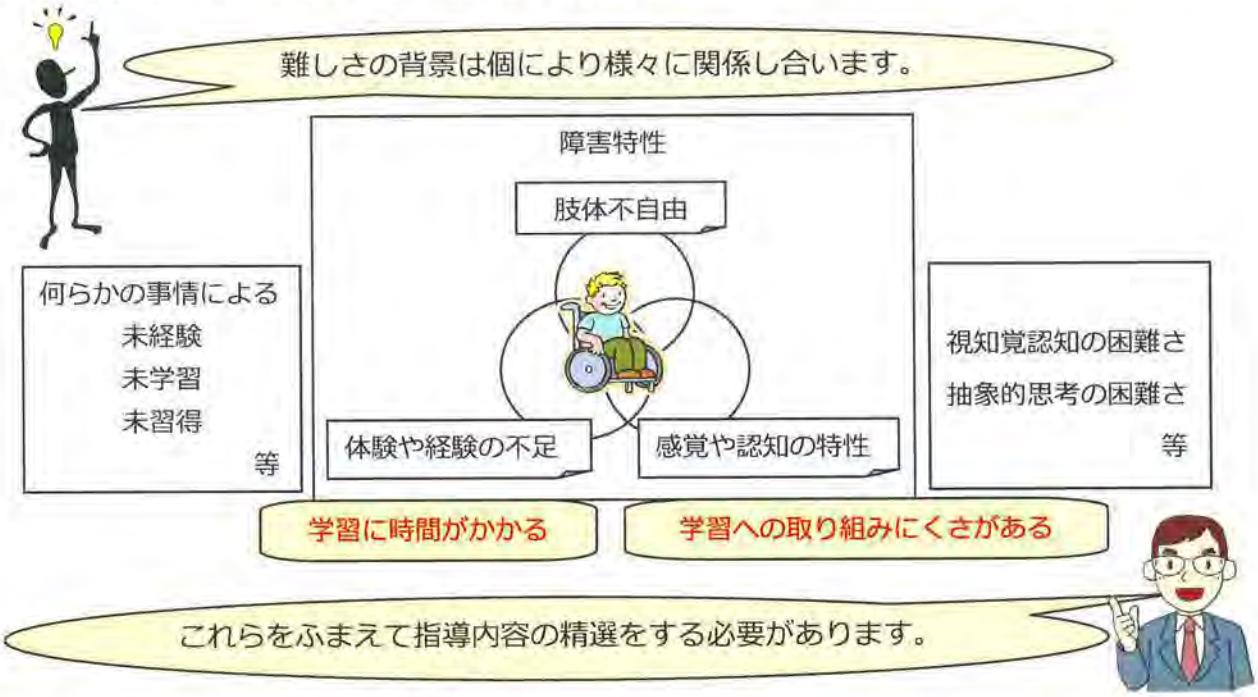
こうした子どもが「ゆっくり・着実に」各教科等における基礎的・基本的な事項を身につけるには，指導内容の精選が必要です。

１．指導内容の精選 とは？

各教科の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や，その活用を図る学習活動の充実をめざし，指導内容を精選して，基礎的・基本的な事項に重点を置くなどして，指導する必要があります。そのためには，児童生徒一人一人の実態を的確に把握し，それぞれの児童生徒にとって，基礎的・基本的な指導内容は何かを十分に見極めることが重要です。

基礎的・基本的な事項を習得するために見極めた指導内容を学習するため
・効果的に学ぶための指導内容の配列の検討
・適切な教材の選定
・指導の手順の検討
・指導の軽重の検討
が求められます。

肢体不自由児の場合，身体の動きや，感覚や認知の特性，学習や生活の経験，コミュニケーションの状態等，学習を難しくする背景は多岐に渡ります。



2．これまでの指導 において

特別支援学校学習指導要領等では，障害の状態等に応じ，きめ細やかな指導を行うことができるよう，様々な規定があります。なかでも，特別支援学校学習指導要領の「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」には，小学校・中学校・高等学校の各教科・科目に準じた学習をする際，特に必要な場合は，下学年・下学部の目標及び内容の全部，又は一部を代替することができると示されています。これは，効果的な指導を行うために教育課程を柔軟に取扱い，特に必要な場合には下学年・下学部代替ができるということです。そのためには，各教科の目標及び内容の系統性に基づき，きめ細やかな指導を行うことを基本に，適切な指導内容の精選と重点化した指導を行うための計画の立案が必須です。

しかし，これまでの指導において，指導内容の精選よりも「下学年・下学部代替」が前提になっていなかったでしょうか？

指導内容の精選の視点がなく、下学年・下学部代替が前提だと・・・

① 当該教科の目標及び内容の全てを下げ，できていない内容を繰り返すだけになり，習得している内容の活用を見通した指導が不十分になる可能性がある。

② つまずきばかりに目を向けて時間を割くことで，結果として，各教科の目標及び内容の系統性に即した指導ができず，学ばせたいことの多くを扱えない可能性がある。

③ つまずきばかりに目を向けてしまい，どのように学ばせるか・どのような教材や指導の手順とするか等を十分に検討できず，子どもの発達や関心等をふまえない指導を行う可能性がある。

３．指導内容の精選についての基本方針

当該学年の学習が難しい子どもは，各教科・科目の各学年の目標及び内容について、身についているところもあれば，なかなか身につきにくいところもあり，習得のばらつきがあります。また，それを生じさせる学習上の困難は一人一人に異なります。特に，肢体不自由児の場合，障害特性をはじめとするいくつもの背景が影響し合います。そのため，実態把握は非常に大切です。ただし，個の学習上の困難という現象だけに着目するだけではなく，次の２つのことを念頭に置く必要があります。

・各教科の目標及び内容の系統性においてどのような状況にあるのか
・障害特性等をふまえ，どのような手だて・配慮，指導の工夫が必要になるのか

これらを見つめ，各教科の目標及び内容の系統性という軸において，肢体不自由児に対する指導の在り方を検討することが求められます。

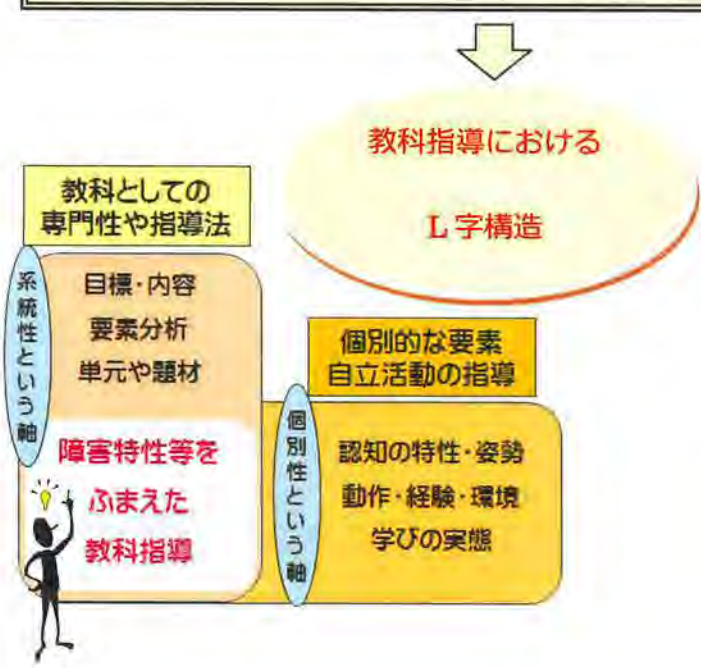
指導内容の精選についての基本方針

①各教科の目標及び内容の**系統性**，習得の**連続性**をおさえた指導の見通しをもつ

②効果的に学ぶための**指導内容の配列**や内容の**領域・事項同士の関係**をおさえた指導の工夫を図る

③指導内容の**核になる・重点的に学ぶべき事項を見極めて**指導内容の精選を図る

④学習指導要領の各学年の目標及び内容事項の枠を越えて，**在学期間を通した指導計画を検討**し，指導の重点化の計画を図る



これらに基づき，指導計画を検討すると，下学年・下学部代替や重点的に繰り返す等のきめ細やかな指導が意味を持ちます。

次ページからは，これら４つの基本方針に従って検討した，国語，算数・数学における指導内容の精選，指導の重点化について，解説します。

4．国語における指導内容の精選

国語科の指導内容は，系統的・段階的に上の学年へつながっていくとともに，螺旋的・反復的に繰り返しながら学習
「読むこと」の３領域の指導事項及び言語活動例，さらには「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を関連付
当該学年の学習が難しい子どもには，各領域の中でも「読むこと」「書くこと」の学習が著しく苦手である場合が多
の難しさが，「書くこと」等の他領域の理解に与える影響も大きく，学習が定着しにくいことがあります。そこで，「読

「読むこと」の指導事項相互の関係のとらえ

①「読むこと」について，小学校・中学校学習指導要領の内容から，**特につまずきが見られる**指導事項である，**文章理解**（「説明的な文章の解釈」「文学的な文章の解釈」）を柱に，内容の細かな分析，習得・つまずきの状況を確認しました。

【文章の解釈】についてのつまずき

小中９年間の【文章の解釈】についての
重点化した指導の大まかな流れ図

要旨をとらえる

構成や展開の仕方，
巧みな叙述に注意して読む

文章の内容を要約する

まとまり同士の関係性をつかむ

要点をとらえる

内容のまとまりをとらえる

内容の大体をとらえる

出来事や事柄の順序に沿って読む

③重点的な指導のために，**授業者が指導の見通しを持つための流れ図**を作成しました。この小学校・中学校９年間の流れ図を基軸として，個々の子どもに応じて指導の大まかな段階を設定します。

【説明的な文章の解釈】に
指導事項

	指導事項	
（小）第5学年及び第6学年	目的に応じて，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすること。	事実と感想，意見などとの関係を押
		自分の考えを明確にする。
		自分の知識や経験，考えなどと関係
		のように考えるか意識して読む。
		筆者の意図や思考を想定しながら文
		筆者が，どのような感想や意見，事
		得したりしようとしているのかがわ
		筆者が，どのような事実を事例とし
		求められている分量や表現の仕方な
		目的に応じて文章の内容を的確に押
		文章の重要な点を表現に即して的確
		文章に書かれている話題，理由や根
		で注意して読む。
（小）第3学年及び第4学年	目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。	事実と意見との関係を考え，文章の
		事実と意見とがどのように区別され
		事実と意見の記述の仕方の違いにつ
		目的に応じて段落相互の関係をとら
		指示語や接続語，文末表現に注意し
		小見出しを付ける。
		中心となる語や文に注目して要点を
		目的に応じて中心となる語や文をと
		「段落」がわかる。
（小）第1学年及び第2学年	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	文章表現上の順序に沿って内容を押
		時間の順序に沿って内容を押さえて
		事柄の順序に沿って内容を押さえて
		短い文章で，そのだいたいの内容が

④重点化する指導内容を系統的・
目標を達成するために特に必要
点項目の系統表を作成しました
まずきの状況を確認するチェッ
けて習得すべき項目」や今後「
にしています。

し，能力の定着を図ることになっています。そのため，子どもの実態に応じ，「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，
けながら系統化を図り，重点を置くべき指導内容について明確にする必要があります。
，文法事項などの理解はできても，それを読み書きに生かすのは難しいということがあります。また，「読むこと」
むこと」に着目し，次の①～⑤のような流れで重点を置くべき指導内容を設定しました。

の状況の確認

中心となる語や文をとらえる

段落・場面などのまとまりをつかむ

段落・場面相互の関係性をつかむ

内容を要約する

②特に，「**まとまりをつかむ（中心語句・段落）**」「**関係性をつかむ（段落の関係）**」「**まとめる（要約）**」ことについてつまずきが見られ，この点について**時間をかけて重点的に指導**する必要があると考えられます。

教材選定について

①～⑤に基づき，**子どもの発達段階や他領域での習得状況に応じた教材の選定**を行います。国語では，小６の子どもが小３の文章理解についての習得が不十分な時に，小３の教科書の教材をそのまま用いることは，子どもの言語環境や習得した語彙等をふまえると，有効ではない場合もあります。授業者は，子どものつまずきのみではなく，定着していることや興味関心等をふまえ，**成就感をもってとりくめる教材を選定する**必要があります。

関する
の重点項目の系統表

重点項目の系統・段階

え，自分の考えを明確にしながら読む。

けながら，自分の立場から書かれている意見についてど

全体の構成を把握する。
や主張などを行い，自分の考えを論証したり読み手を説
る。
挙げ理由や根拠としているかがわかる。

に合わせてまとめる。
えて要旨をとらえる。
理さえる。
となっている内容，構成の仕方や巧みな叙述などについ

容や構成を把握する。
いるのかを把握する。
て気付く。
る。
読む。

とめる。
える。

えて読む。
む。
む。
かる。

【文学的な文章の解釈】に関する
指導事項の重点項目の系統表

	指導事項	重点項目の系統・段階
（小）第５学年及び第６学年	登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。	象徴性や暗示性の高い表現や内容，メッセージや題材を強く意識させる表現や内容を評価したり，自分の表現に生かしたり，感想文や解説文などにまとめたりする。
		象徴性や暗示性の高い表現や内容，メッセージや題材を強く意識させる表現や内容に気付く。
		場面の展開に沿って読みながら，感動やユーモア，安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して読む。
		心情を暗示的に表現する表現の仕方に注意し，想像を豊かにしながら読む。
		登場人物の相互関係から人物像や役割をとらえることによって，内面の深い心情もとらえる。
		登場人物の相互関係をとらえ，それらに基づいて心情や場面の描写をとらえる。
（小）第３学年及び第４学年	場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読むこと。	場面の移り変わりに即して，登場人物の関係の変化を考える。
		登場人物同士がどのような関係にあるか，物語の上でどのような役割を担っているかなどを考えながら読む。
		場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちについて，関連的にとらえる。
		場面ごとに，登場人物の性格や気持ち，情景などを整理し，まとめる。
		登場人物の行動や会話から，性格や気持ちを想像する。
		情景や場面の様子の変化を読み取る。
		場面ごとに，登場人物の行動や会話を抜き出す。
		物語の設定（時間・場所・人物）が分かり，場面の移り変わりをとらえる。
（小）第１学年及び第２学年	場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	物語の展開に即して各場面の様子が変化することを把握する。
		中心となる登場人物の行動が変化していくことを把握する。
		言葉の響きから登場人物の様子を思い描き，気持ちを想像しながら読む。
		登場人物がしたことを動作化し，気持ちを考える。
		登場人物がしたことを順番に読み取る。
		登場人物をとらえる。
		絵本やお話の本の読み聞かせを楽しむことができる。
		絵と言葉を結ぶことができる。

下から上に段階的に見ていきます。

段階的に細かく設定し，子どもが学習
項目を明らかにした，指導事項の重
この系統表は，一人一人の習得とつ
リストの役割をも果たし，「**時間をか
指すべき項目**」が細かくわかるよう

⑤系統表の項目は，一単元のみで定着させるものではなく，各項目をバラバラに指導するものでもありません。また，各項目の一つができていないため，次の段階に絶対に進めないというものでもありません。**各項目を関連させて，長期的かつ段階的に指導**していく必要があります。

5．算数・数学における指導内容の精選

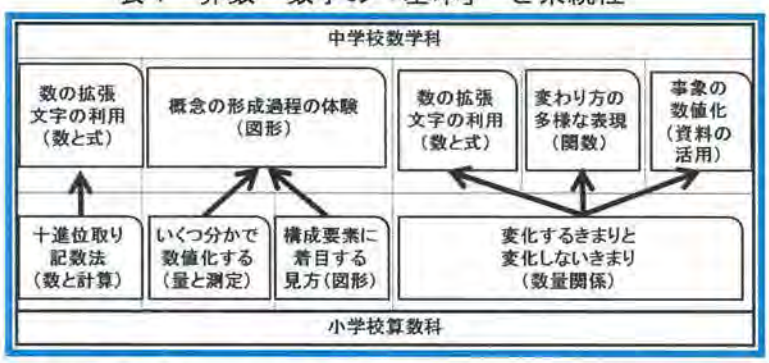
当該学年の学習が難しい子どもへの指導は，適切な実態把握に基づいた指導目標の設定，指導内容の重点化，それらに応じた指導方法の工夫が必要であり，重点化の手続きが大切になります。

－ 算数・数学科の基本 －

算数・数学は，目標及び内容の系統性が明確であるという教科の特質があります。

そこで，小学校・中学校 9 年間の系統性をもとに、指導内容の精選・重点化に求められる**算数・数学科の「基本」**（表 1）を作成しました。

表 1　算数・数学の「基本」*と系統性



＊基本とは，「領域ごとの学習内容に一貫している考え方」としました。

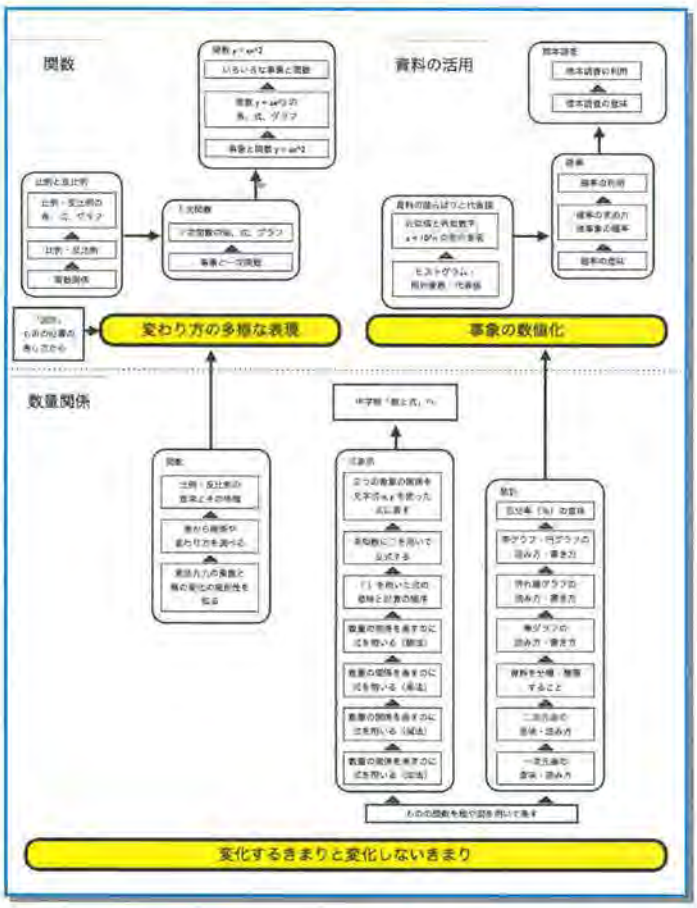


図 1 当該学年の学習が難しい子どもの指導内容系統図

－ 指導内容の重点化 －

指導目標の設定と指導内容の重点化をするため，「基本」を軸に指導内容の系統図を作成しました（図 1）。

－ 系統図を活用した実態把握 －

この系統図をもとに**子どもの学習習得状況とつまずき**をチェックします。それらから指導目標を明確にしました。

－ 指導方法の工夫 －

実際の指導にあたっては，**子どもの障害特性等**を踏まえて指導内容を設定し，年間計画や単元計画の配列，指導の順序，教材の選定など，指導方法を工夫して授業を展開しました。

＜ 指導内容の重点化の実践例　＞

①算数・数学科の「基本」　②子どもの学習習得状況とつまずき　③子どもの障害特性等

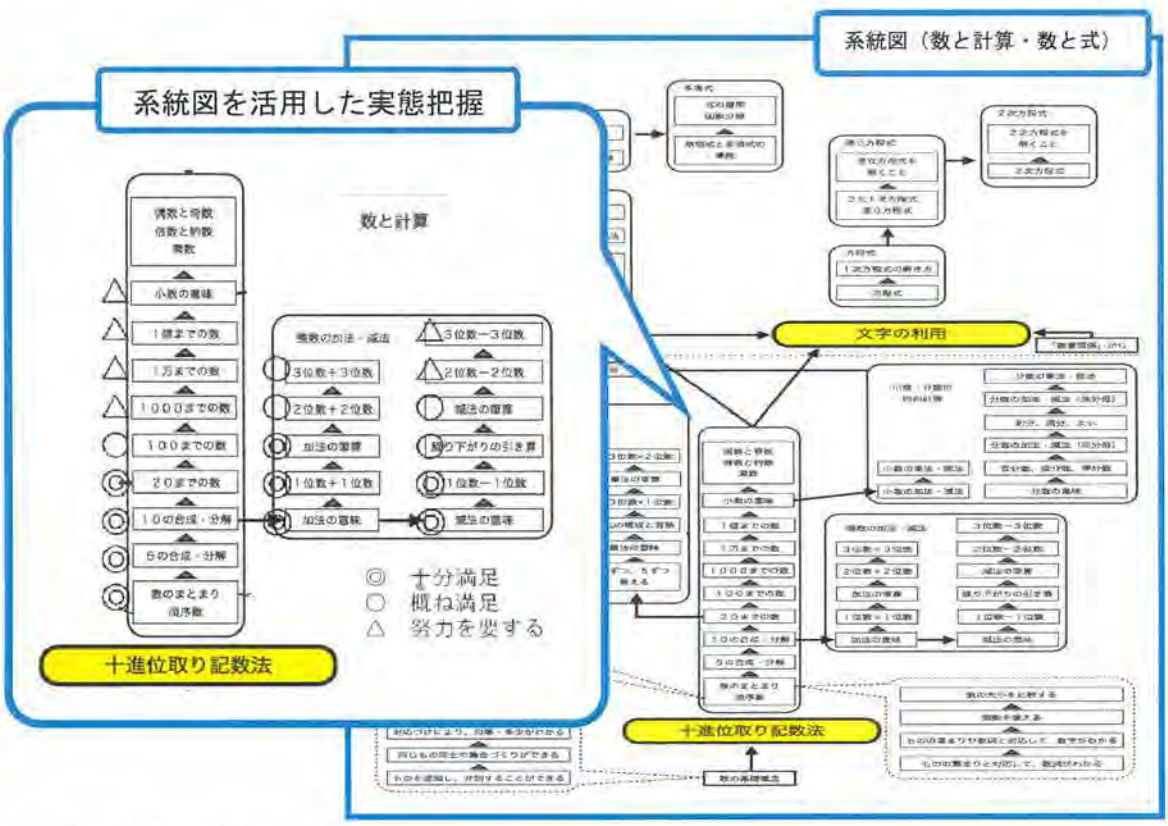
これら３点をふまえ，指導内容を重点化します。

例：　小学部第３学年　【　３位数の加法・減法（数と計算）　】

① 算数・数学科の「基本」　　十進位取り記数法

② 子どもの学習習得状況とつまずき

筆算の手順は記憶しているが，２位数以上の繰り下がりがある計算の意味理解が難しい。



③ 子どもの障害特性等

数をまとまりで捉える難しさ、数量をイメージする難しさ、上肢操作や姿勢の持続しにくさ。

重点化した指導内容

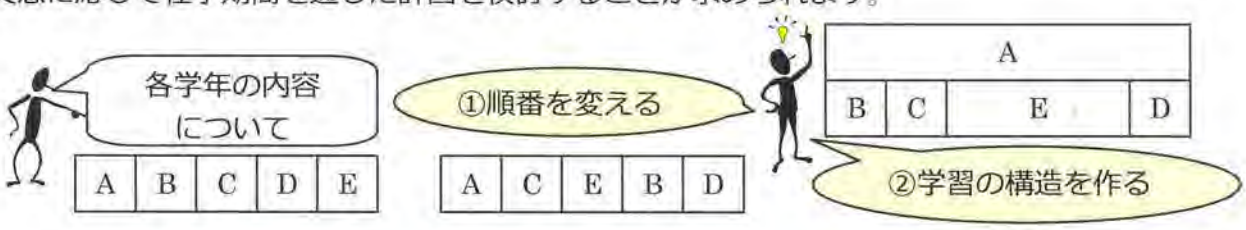
○ ２～３位数の加減法の筆算の仕方を，具体物を用いて考え、言葉で説明したり計算したりする。

６．精選した指導内容に基づく指導の重点化

精選した指導内容において，効果的に学習を進めるには，次の点に留意する必要があります。

（１）各教科・科目の目標及び内容の系統性，子どもの学びやすさをふまえた指導内容の配列

各学年の目標及び内容に掲げる事項は，その順番に行う必要はありません。また，教科書の配列通りに学習を進める必要もありません。目標及び内容の系統性に即して行うことをおさえ，子どもの実態に応じて在学期間を通した計画を検討することが求められます。



（２）子どもの習得状況や発達の段階，興味関心の程度等をふまえた教材の選定

例えば，小６の子どもが小３の文章理解についての習得が十分でないから，小３の教科書における当該のねらいがある教材を行うことは，子どもの学習意欲を引き出すには課題がある場合が多いといえます。学習のつまずきだけに着目するのではなく，着実に身につけていること，興味関心をもっていること等をふまえ，具体的に思考できる教材を選定する必要があります。

（３）子どもの学びやすさをふまえた指導の手順

肢体不自由児のなかには，障害特性等から，複数の事項を同時に処理することが苦手であったり，動きにくさや，自ら経験・体験して身につける機会が少ないこと等から，イメージがもちにくい等の課題があります。こうした子どもには，順序立てること，スモールステップで確認すること，前段階の学習を振り返ること等が、効果的な学習につながります。

(4) 指導の軽重

精選した指導内容を重点的に学ぶということは，それ以外の指導内容についても，何を・どの程度学ばせるのかを明確にする必要があります。つまり、重きを置く事項とそれ以外の事項の双方について、具体的な指導計画を検討することが大切です。